



2014年 平成26年

年頭にあたり新年のお祝詞を申し上げます
旧年中は格別なるご支援を賜り
厚く御礼申し上げます

第95号	
発行所	酒井重工業株式会社
住所	東京都港区芝大門1-4-8
電話	03-3434-3401
FAX	03-3434-3419
発行人	加藤 孝

明けまして、おめでとう御座います。

今年は久しぶりにお祝いムードで迎える、明るい年明けになりました。

昨年は、アベノミクスによる異次元の金融緩和と機動的な財政政策により、日本経済のデフレ克服と行過ぎた円高の是正が進み、日経平均が9千円から1万5千円へと7割上昇し、ドルが80円から100円に、ユーロも100円から140円へと、主要通貨に対して2割以上の円安が進む経済条件の大転換がありました。失われた20年といわれる日本経済の長い停滞から、アベノミクスに対する期待感が高まり、主要経済条件が一気に好転した格好です。

国内の道路建設関連業界にとっては、5.5兆円の補正予算、震災復興工事、東京オリンピック、国土強靱化など中長期的な見通しが固まり、公共投資の長期縮小トレンドが漸く底入れし、明るい兆しが見えてきました。

今後の道路建設の方向性は、復興・防災と点検・維持補修・長寿命化など新たなニーズが求められるものと予想しています。当社としては、お客さまの声に直結したモノづくりを推進することにより、皆様のご要望に応えられる企業活動を目指して参る所存です。

本年も変わらぬご指導とご鞭撻を賜りたく、宜しく願い致します。



酒井重工業株式会社

代表取締役 酒井 一郎



昨年の夏が暑かったせいか、この冬の寒さがことのほか、厳しく感じるこの頃です。新年を迎え、どんなものがお客様にとって必要な情報なのか改めて考え直し、本年も編集に取り組んでまいりたいと思っております。引き続きご愛読頂きます様、宜しく願い致します。

サカイニュース発行人 加藤 孝 及び 編集委員一同

SAKAI 世界代理店会議開催

酒井重工業は、本年11月18日～20日の3日間で世界各国の代理店関係者を一堂に集めた SAKAI 世界代理店会議を開催致しました。開催場所はインドネシアで、招致された代理店関係者は総勢63名、アジア・中近東・中南米地域を中心に19カ国（22社）となりました。

初日は、ジャカルタ近郊にある当社の輸出向け現地工場 P.T. SAKAI INDONESIA（通称 SI）及びインドネシア国内向け工場 SAKAI ROAD MACHINERY INDONESIA（通称 SRMI）を見学し、SV520 などに実際に触れて新製品に対する理解を深めて頂きました。

翌日の会議では、酒井重工業より製品の紹介、海外展開、部品供給に関するプレゼンテーションが行われ、代理店側からは各国の販売状況や当社への要望など活発な話し合いが行なわれ、相互理解が進み大変実のあるものとなりました。



工場見学



プレゼン風景



製品の紹介



民族ダンスで歓迎



会議を終えて一同集合

城下町萩を歩こう ～その1 吉田松陰誕生地～

1. はじめに

萩・津和野で有名な山口県萩市は、本州最西端の下関から JR 山陰本線にのって 3 時間前後かかる海辺の城下町です。萩城城下町は国指定史跡に指定されており、周辺は今も江戸時代の地図がそのまま使えるほど町筋がそのまま残っています。菊屋横町、伊勢屋横町、江戸屋横町と呼ばれる小路があり、そこには萩藩御用達の豪商菊屋家、なまこ壁の土蔵、高杉晋作誕生地、木戸孝允旧宅など往時の面影をとどめたものがたくさんあります。

本稿では「城下町萩を歩こう」の第一弾として、吉田松陰誕生地を紹介したいと思います。

2. 吉田松陰誕生地

団子岩と呼ばれる風光明媚な所で、吉田松陰は天保元年（1830年）に萩藩士杉百合之助の二男としてこの地に生まれ、本名は矩方（のりかた）、通称寅次郎と呼ばれていました。吉田松陰誕生地ならびに墓地は玉木文之進（吉田松陰の叔父で松下村塾の創始者）旧宅前の坂を上った、萩市街を眼下に見下ろす高台にあり、近くに松陰とその一族、高杉晋作、久坂玄瑞らの墓があります。ここから萩の街が一望できます。現在は、建物の敷石と松陰産湯の井戸が残っており、東の高台に松陰の銅像が建っています。

(つづく)



吉田松陰像



松陰誕生の地



誕生の地からの眺望



産湯の井戸



松陰の墓地

ある町この道シリーズ⑱ ～富士見コース～

昨年の6月22日に富士山が、関連する文化財群とともに「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」の名で世界文化遺産に登録されました。富士山は、ご存じのように標高3,776mの日本最高峰の山です。子供の頃はたしか休火山と教えられた記憶があるのですが、今は活火山に分類されているようです。

富士山は日本最高峰だけあって様々な場所から見る事ができ、都内にも富士見という地名や富士見坂が数多く残っています。残念ながら今は高い建物が増えてしまった為に殆どの所で富士山全体を見る事が出来なくなっていますが・・・。

今回は、私の友人からリサーチした富士山の絶景を拝めるルー



写真1 足柄城址から

トをご紹介します。まずは東名高速道路の大井松田インターを降りて県道78号線を足柄方面に上っていった所にある足柄城址です(写真1)。ここからは富士山の裾野から山頂までを一望でき、それはもう富士山を独り占めしたかのような気持ちにさせられる場所です。富士山の中腹をゆっくりと流れていく雲をぼんやりと見ているだけで心が落ち着いてきます。

次は足柄から山中湖に至る県道147号線で、山中湖が近くなるにつれて高い位置から湖と富士山が同時に見る事ができ、なかなか壮観です。ここからは富士五湖の湖畔ルートとなります。山中湖、河口湖(写真2)では湖をはさんだ対岸に富士山をドドーンと迫力満点に見る事ができます。次の西湖は辺りの山が邪魔をしてなかなか富士山が拝めないのですが、最後の方ようやく山がきかれて、眺望できるので何か特をした気分になります。精進湖は小さな湖で奥の方にほんの短い間しか見られません。最後は本栖湖ですが、ここは旧5000円札(新渡戸稲造)と新1000円札(野口英世)の裏に印刷されている逆さ富士のデザインの元になった写真家の岡田紅陽さんの「湖畔の春」という作品が撮られた場所です。実際は「浩庵」という民宿レストランの裏手の山を登った所がその撮影ポイントらしいです。



写真2 河口湖から

おっと忘れていましたが、山中湖と河口湖の間にある忍野八海という富士山の湧水で有名な観光スポットからの富士山もなかなかです(写真3)。その他にも箱根に上がっていく道の途中、西伊豆スカイラインの駿河湾越し、そしてもちろん話題になった三保の松原からの富士山も見ごたえがあります。

富士山は、場所は勿論の事、季節や天気、時間によって刻々と姿を変える為、いつ見ても新鮮な感動があり、やはり世界文化遺産に相応しい山であると改めて思いました。これからも時々見に行きたいですね。



写真3 忍野八海から